

カルツァ・クラインの計算とクラインのゲージ理論

中嶋 慧

October 20, 2020

Abstract

このノートでは、まず、クラインの 1938 年の SU(2)「ゲージ理論」を紹介し、そのラグランジアン密度を求める。次に、パウリの 1953 年の SO(3) ゲージ理論を紹介する。最後に、カルツァ・クライン理論の非可換ゲージ場版(キリングベクトルを使う定式化と使わない定式化の両方)のラグランジアン密度を求める。

Contents

1	クラインの 1938 年の理論	3
2	クラインの「ゲージ理論」の ${}^5\mathcal{N}$	7
3	パウリの SO(3) ゲージ理論 (1953 年)	11
4	非可換カルツァ・クライン理論：藤井『超重力理論入門』	13
4.1	設定	13
4.2	$\tilde{\omega}^a_{BC}$	14
4.3	$\tilde{\omega}^A_{BC}$	14
4.4	$\tilde{\omega}_{AB}$	16
4.5	\tilde{N}	17
4.5.1	N_1	18
4.5.2	N_2	18
4.5.3	N_3	19
4.5.4	キリング条件	19
5	非可換カルツァ・クライン理論：内山『一般ゲージ場論序説』	20
5.1	設定	20
5.2	$\tilde{\omega}^A_B$	21
5.3	\tilde{N}	23

A	5G の計算	25
A.1	記号	25
A.2	${}^5\Gamma_{cab}$	25
A.3	${}^5\Gamma_{ab}^c$	26
A.4	5G	27
A.4.1	$r_{\alpha\beta}$	28
A.4.2	$r_{4\beta}$	29
A.4.3	r_{44}	30
A.4.4	5G : 局所慣性系	30
A.4.5	上の計算で落とした項	30
A.4.6	5G	31
A.5	5R	31
B	スカラー場がある場合	32
B.1	${}^5\mathcal{N}$	32
B.2	5R	32
C	キリング条件	34

1 クラインの1938年の理論

この章の参考文献は、[1]である。

以下、ギリシャ文字の添え字は0, 1, 2, 3を表し、ラテン文字の添え字は0, 1, 2, 3, 4を表す。カルツァ・クライン理論の5次元時空の計量は、

$$\gamma_{44} = \alpha, \quad \gamma_{4\mu} = A_\mu, \quad \gamma_{\mu\nu} = g_{\mu\nu} + \frac{1}{\alpha} A_{(\mu} A_{\nu)} \quad (1.1)$$

であり、逆行列は、

$$\gamma^{\mu\nu} = g^{\mu\nu}, \quad \gamma^{4\mu} = -\frac{1}{\alpha} A^\mu, \quad \gamma^{44} = \frac{1}{\alpha} + \frac{1}{\alpha^2} A_\mu A^\mu \quad (1.2)$$

である。 α は定数である。 $g^{\alpha\beta}$ は、 $g_{\alpha\beta}$ の逆で、ギリシャ文字は $g^{\alpha\beta}$, $g_{\alpha\beta}$ で上げ下げする。クラインの1938年の理論では、 A_μ は行列で、 x^4 に依存する。通常のカルツァ・クライン理論では、 A_μ は電磁場と同定される。

クラインは、メソン場と核子場の相互作用を考えた。その際、5番目の次元 x^4 を考え、場は $e^{-iqx^4/\beta}$ の x^4 依存性を持つと仮定した。ここで、 q は電荷である。 β は定数である。

$A_\mu = \beta\chi_\mu$ と置く。また、以下では $\alpha = 1$ とする。

クラインは χ_μ を、核子のアイソスピン2重項

$$\psi \stackrel{\text{def}}{=} \begin{pmatrix} \psi_n \\ \psi_p \end{pmatrix} \quad (1.3)$$

(ψ_n, ψ_p はディラック場で、それぞれ中性子、陽子を表す)に作用する2次行列

$$\chi_\mu = \begin{pmatrix} A_\mu & \tilde{B}_\mu \\ B_\mu & A_\mu \end{pmatrix} \quad (1.4)$$

とした。 A_μ (上述のとは別物)は x^4 に依らないが、 \tilde{B}_μ, B_μ は、

$$\beta\partial_4 \tilde{B}_\mu = -ie\tilde{B}_\mu, \quad (1.5)$$

$$\beta\partial_4 B_\mu = ieB_\mu \quad (1.6)$$

に従うものと仮定する。 e は電気素量である。 A_μ は電磁場と同定され、 \tilde{B}_μ, B_μ は正および負のメソンと同定される。 $\bar{\psi} \stackrel{\text{def}}{=} (\bar{\psi}_n, \bar{\psi}_p)$ とし、 $\bar{\psi}_A (A = n, p)$ は $\bar{\psi}_A = \psi^\dagger i\epsilon^0$ によって定義される。 ϵ^a の定義は後述の(1.13)である。 x^4 依存性は、

$$\beta\partial_4 \psi = ie \begin{pmatrix} 0 \\ \psi_p \end{pmatrix} = ie \begin{pmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \psi, \quad (1.7)$$

$$\beta\partial_4 \bar{\psi} = -ie(0, \bar{\psi}_p) \quad (1.8)$$

を仮定する。

ψ のラグランジアン密度の候補は、

$$\begin{aligned} \mathcal{L} &= -\bar{\psi}(\gamma^a \partial_a + m)\psi \\ &= -\bar{\psi}(\gamma^\mu \partial_\mu + \gamma^4 \partial_4 + m)\psi \\ &= -\bar{\psi}(\gamma^\mu \partial_\mu + \gamma^4 \frac{ie}{\beta} \begin{pmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} + m)\psi \end{aligned} \quad (1.9)$$

である。ここで、 γ^a は、

$$\frac{1}{2}(\gamma^a\gamma^b + \gamma^b\gamma^a) = \gamma^{ab} \quad (1.10)$$

で定義される。 $\gamma_a \stackrel{\text{def}}{=} \gamma_{ab}\gamma^a$ とすると、

$$\frac{1}{2}(\gamma^a\gamma_b + \gamma_b\gamma^a) = \delta_b^a, \quad (1.11)$$

$$\frac{1}{2}(\gamma_a\gamma_b + \gamma_b\gamma_a) = \gamma_{ab} \quad (1.12)$$

である。今、

$$\frac{1}{2}(\varepsilon_a\varepsilon_b + \varepsilon_b\varepsilon_a) = \eta_{ab} \quad (\eta_{ab} = \text{diag}(-1, 1, 1, 1, 1)) \quad (1.13)$$

で ε_a を定義し、 $\gamma_4 = \varepsilon_4$ と置く。 $\gamma_4 = \gamma_{4a}\gamma^a = \gamma^4 + \beta\chi_\mu\gamma^\mu$ なので、

$$\gamma^4 = \varepsilon_4 - \beta\gamma^\mu\chi_\mu \quad (1.14)$$

となる¹⁾。この表式を (1.9) に代入し、 ε_4 に比例する項を落として、

$$\mathcal{L}' = -\bar{\psi}(\gamma^\mu D_\mu + m)\psi, \quad (1.15)$$

$$D_\mu\psi \stackrel{\text{def}}{=} \left[\partial_\mu - ie\chi_\mu \begin{pmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \right] \psi \quad (1.16)$$

を得る。

上の $D_\mu\psi$ の表式は、SU(2) ゲージ理論の共変微分と少し異なる。今、

$$A_\mu^1 \stackrel{\text{def}}{=} \frac{\tilde{B}_\mu + B_\mu}{\sqrt{2}}, \quad A_\mu^2 \stackrel{\text{def}}{=} i\frac{\tilde{B}_\mu - B_\mu}{\sqrt{2}}, \quad A_\mu^3 \stackrel{\text{def}}{=} A_\mu \quad (1.17)$$

と置くと、

$$\chi_\mu = \frac{1}{\sqrt{2}}(\sigma_1 A_\mu^1 + \sigma_2 A_\mu^2) + A_\mu^3 \quad (1.18)$$

と書ける。ここで、

$$\sigma_1 = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}, \quad \sigma_2 = \begin{pmatrix} 0 & -i \\ i & 0 \end{pmatrix}, \quad \sigma_3 = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix} \quad (1.19)$$

である。また、 $\begin{pmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} = (1 - \sigma_3)/2$ なので、 $D_\mu\psi$ は、

$$D_\mu\psi = \left[\partial_\mu - ie\left\{ \frac{1}{\sqrt{2}}(\sigma_1 A_\mu^1 + \sigma_2 A_\mu^2) + A_\mu^3 \right\} \frac{1 - \sigma_3}{2} \right] \psi \quad (1.20)$$

¹⁾ χ_μ はアイソスピン 2 重項に作用する行列であり、 γ^μ は ψ_n, ψ_p に作用する行列なので、 χ_μ は γ^μ と可換である。

と書ける。これは、通常の変微分

$$[\partial_\mu - \frac{ie}{2} \sum_{k=1}^3 A_\mu^k \sigma_k] \psi \quad (1.21)$$

と異なる。

通常の変次元の理論では、重力場のラグランジアン密度は、 $G/(2\kappa)$ である。ここで、

$$G = g^{\mu\nu} [\Gamma^\rho_{\gamma\nu} \Gamma^\gamma_{\mu\rho} - \Gamma^\rho_{\gamma\rho} \Gamma^\gamma_{\mu\nu}] \quad (1.22)$$

である。これの γ_{ab} に対する対応物を 5G とする。 $g_{\mu\nu}$ は x^4 に依らないとして、クラインは、

$${}^5G = G - \frac{\beta^2}{4} \chi_{\mu\nu} \chi^{\mu\nu} \quad (1.23)$$

を得た。ここで、

$$\chi_{\mu\nu} \stackrel{\text{def}}{=} \nabla_\mu \chi_\nu - \nabla_\nu \chi_\mu, \quad (1.24)$$

$$\nabla_\mu \chi_\nu \stackrel{\text{def}}{=} (\partial_\mu - \beta \chi_\mu \partial_4) \chi_\nu \quad (1.25)$$

である。これより、

$$\chi_{\mu\nu} = \begin{pmatrix} A_{\mu\nu} & \tilde{B}_{\mu\nu} \\ B_{\mu\nu} & A_{\mu\nu} \end{pmatrix}, \quad (1.26)$$

$$A_{\mu\nu} = \partial_\mu A_\nu - \partial_\nu A_\mu + ie(B_\mu \tilde{B}_\nu - \tilde{B}_\mu B_\nu), \quad (1.27)$$

$$B_{\mu\nu} = \partial_\mu B_\nu - \partial_\nu B_\mu + ie(A_\mu B_\nu - B_\mu A_\nu), \quad (1.28)$$

$$\tilde{B}_{\mu\nu} = \partial_\mu \tilde{B}_\nu - \partial_\nu \tilde{B}_\mu - ie(A_\mu \tilde{B}_\nu - \tilde{B}_\mu A_\nu) \quad (1.29)$$

を得る。

これらは、変微分 (1.21) に対応する $SU(2)$ ゲージ場の強さ

$$F_{\mu\nu}^a = \partial_\mu A_\nu^a - \partial_\nu A_\mu^a + e \sum_{b,c=1}^3 \varepsilon^a_{bc} A_\mu^b A_\nu^c \quad (a = 1, 2, 3) \quad (1.30)$$

と対応する。ここで、 $\varepsilon^a_{bc} = \varepsilon_{abc}$ はレビチビタの記号である。 $\chi_{\mu\nu}$ は $F_{\mu\nu}^a$ を用いて、

$$\chi_{\mu\nu} = \frac{1}{\sqrt{2}} (\sigma_1 F_{\mu\nu}^1 + \sigma_2 F_{\mu\nu}^2) + F_{\mu\nu}^3 \quad (1.31)$$

と書ける。これは、通常の変式

$$\mathbf{F}_{\mu\nu} \propto \sum_{a=1}^3 \sigma_a F_{\mu\nu}^a \quad (1.32)$$

とは異なる。 \propto は定数倍を除いて等しいという意味である。

クラインは、(1.23) を、

$${}^5G = G - \frac{\beta^2}{4} \text{Tr}(\chi_{\mu\nu} \chi^{\mu\nu}) \quad (1.33)$$

と解釈した。また、全系の作用として、

$$S = \int d^4x \sqrt{-g} \mathcal{L}_{\text{tot}}, \quad (1.34)$$

$$\mathcal{L}_{\text{tot}} = \mathcal{L}' + \frac{1}{2\kappa} {}^5G - \frac{\mu^2 c^2}{2\hbar^2} g^{\mu\nu} B_\mu \tilde{B}_\nu \quad (1.35)$$

を採用した。ただし、 $\beta^2 = 2\kappa$ とした。 μ はメソンの質量であり、 κ はアインシュタイン定数である。 g は $g_{\mu\nu}$ の行列式である。

付録(1.23)では、(1.23)の導出を試みるが、途中で諦めて $\partial_4 \chi_\mu = 0$ の場合、つまり、通常のカルツァ・クライン理論の場合に限って計算する。

次の上では、 5G に代わりに ${}^5\mathcal{N}$ を計算する。ここで、 ${}^5\mathcal{N}$ は4次元の \mathcal{N} の対応物で、 \mathcal{N} はスカラー曲率 R や G と同じ役割を果たす量である。

2 クラインの「ゲージ理論」の ${}^5\mathcal{N}$

前章のクラインの「ゲージ理論」のラグランジアン密度を導出する。

(1.1) の計量は、

$$\gamma_{ab}dx^a dx^b = g_{\mu\nu}dx^\mu dx^\nu + \alpha(dx^4 + \frac{1}{\alpha}A_\mu dx^\mu)^2 \quad (2.1)$$

である。以下、 $\alpha = 1$ とする。フレーム 1 形式を、

$$g_{\mu\nu}dx^\mu dx^\nu = \eta_{AB}\theta^A\theta^B, \quad (2.2)$$

$$\theta^4 \stackrel{\text{def}}{=} dx^4 + A_\mu dx^\mu \quad (2.3)$$

で導入する。 η_{AB} はミンコフスキー計量である。 A, B, C, D は 0 から 3 を表す。このとき、

$$\gamma_{ab}dx^a dx^b = \eta_{AB}\theta^A\theta^B + \theta^4\theta^4 \equiv \tilde{\eta}_{AB}\theta^A\theta^B \quad (2.4)$$

となる。 A, B は 0 から 4 を表す。 A, B の上げ下げは η_{AB} とその逆で、 A, B, C, D の上げ下げは $\tilde{\eta}_{AB}$ とその逆で行う。

この章の以下の計算は、[3] を参考にした。今、

$$d\theta^A = -\tilde{\omega}^A_B \wedge \theta^B, \quad (2.5)$$

$$d\theta^A = -\omega^A_B \wedge \theta^B \quad (2.6)$$

によって、 $\tilde{\omega}^A_B, \omega^A_B$ を定める。また、

$$\tilde{\omega}^A_B = \tilde{\omega}^A_{BC}\theta^C \quad (2.7)$$

と置くと、

$$\begin{aligned} -\tilde{\omega}^A_B \wedge \theta^B &= -\tilde{\omega}^A_{BC}\theta^C \wedge \theta^B \\ &= -\tilde{\omega}^A_{BC}\theta^C \wedge \theta^B - (\tilde{\omega}^A_{4B} - \tilde{\omega}^A_{B4})\theta^B \wedge \theta^4 - \tilde{\omega}^A_{44}\theta^4 \wedge \theta^4 \end{aligned} \quad (2.8)$$

である。よって、

$$\tilde{\omega}^A_{BC} = \omega^A_{BC}, \quad (2.9)$$

$$\tilde{\omega}^A_{B4} = \tilde{\omega}^A_{4B} (= -\tilde{\omega}^A_{4B}) \quad (2.10)$$

を得る。

ここで、

$$f_{\mu\nu} \stackrel{\text{def}}{=} \partial_\mu A_\nu - \partial_\nu A_\mu, \quad (2.11)$$

$$c_\mu \stackrel{\text{def}}{=} \partial_4 A_\mu \quad (2.12)$$

とし、

$$A \stackrel{\text{def}}{=} A_\mu dx^\mu \equiv A_A \theta^A, \quad (2.13)$$

$$c \stackrel{\text{def}}{=} c_\mu dx^\mu \equiv c_A \theta^A, \quad (2.14)$$

$$f_{\mu\nu}dx^\mu \wedge dx^\nu \equiv f_{AB}\theta^A \wedge \theta^B \quad (2.15)$$

と置く。
さて、

$$\begin{aligned}
d\theta^4 &= \partial_{[\mu} A_{\nu]} dx^\mu \wedge dx^\nu + \partial_4 A_\mu dx^4 \wedge dx^\mu \\
&= \frac{1}{2} f_{\mu\nu} dx^\mu \wedge dx^\nu + c_\mu dx^4 \wedge dx^\mu \\
&= \frac{1}{2} f_{AB} \theta^A \wedge \theta^B + c_B dx^4 \wedge \theta^B \\
&= \frac{1}{2} f_{AB} \theta^A \wedge \theta^B + c_B (\theta^4 - A_A \theta^A) \wedge \theta^B \\
&= \left(\frac{1}{2} f_{AB} - A_{[ACB]} \right) \theta^A \wedge \theta^B + c_B \theta^4 \wedge \theta^B \\
&= \frac{1}{2} F_{AB} \theta^A \wedge \theta^B + c_B \theta^4 \wedge \theta^B,
\end{aligned} \tag{2.16}$$

$$F_{AB} \stackrel{\text{def}}{=} f_{AB} - A_{ACB} + A_{BCA} \tag{2.17}$$

である。これより、

$$\tilde{\omega}^4_B = -\frac{1}{2} F_{AB} \theta^A - c_B \theta^4, \tag{2.18}$$

$$\tilde{\omega}^4_{BA} = -\frac{1}{2} F_{AB} \tag{2.19}$$

となる。(2.10) より、

$$\begin{aligned}
\tilde{\omega}^A_{B4} &= -\tilde{\omega}_4^A_B \\
&= -\frac{1}{2} F^A_B
\end{aligned} \tag{2.20}$$

となり、

$$\tilde{\omega}^A_B = \omega^A_B - \frac{1}{2} F^A_B \theta^4 \tag{2.21}$$

となる。

また、 $\tilde{\omega}_{AB} = -\tilde{\omega}_{BA}$ のはずなので、

$$\begin{aligned}
\tilde{\omega}_4^B &= -\tilde{\omega}_4^B \\
&= \frac{1}{2} F_A^B \theta^A + c^B \theta^4
\end{aligned} \tag{2.22}$$

となる。

曲率 2 形式は、

$$\begin{aligned}
\tilde{\Omega}^A_B &= d\tilde{\omega}^A_B + \tilde{\omega}^A_C \wedge \tilde{\omega}^C_B \\
&\equiv \tilde{r}^A_B + \tilde{s}^A_B
\end{aligned} \tag{2.23}$$

である。特に、

$$\tilde{s}^A_B = \tilde{\omega}^A_C \wedge \tilde{\omega}^C_B + \tilde{\omega}_4^A \wedge \tilde{\omega}_4^B, \tag{2.24}$$

$$\tilde{s}^4_B = \tilde{\omega}^4_C \wedge \tilde{\omega}^C_B \tag{2.25}$$

である。

また、* をホッジ作用とし、 \tilde{R} を γ_{ab} に対するスカラー曲率とすると、

$$*\tilde{R} = \tilde{\Omega}_B^A \wedge e_A^B, \quad e^{AB} \stackrel{\text{def}}{=} *(\theta^A \wedge \theta^B) \quad (2.26)$$

である。また、

$$*\tilde{R} = \tilde{R}_B^A \wedge e_A^B + 2\tilde{R}_B^4 \wedge e_4^B \quad (2.27)$$

である。

今、

$$\begin{aligned} -\tilde{N} &\stackrel{\text{def}}{=} \tilde{s}_B^A \wedge e_A^B \\ &= \tilde{s}_B^A \wedge e_A^B + 2\tilde{s}_B^4 \wedge e_4^B \end{aligned} \quad (2.28)$$

とおく。 $g_{\mu\nu}$ に対するこれを N と書く。 $N = \mathcal{N} * 1$ とすると、

$$\frac{1}{2\kappa} \mathcal{N} \quad (2.29)$$

が、 $g_{\mu\nu}$ に対するラグランジアン密度であった (\mathcal{N} は、 $g_{\mu\nu}$ に対するスカラー曲率 R と同等の役割を果たす)。

$$\begin{aligned} \tilde{s}_B^A &= \left[\omega_C^A - \frac{1}{2} F_C^A \theta^4 \right] \wedge \left[\omega_B^C - \frac{1}{2} F_B^C \theta^4 \right] + \left[\frac{1}{2} F_C^A \theta^C + c^A \theta^4 \right] \wedge \left[-\frac{1}{2} F_{DB} \theta^D - c_B \theta^4 \right] \\ &\approx \omega_C^A \wedge \omega_B^C - \frac{1}{4} F_C^A F_{DB} \theta^C \wedge \theta^D \end{aligned} \quad (2.30)$$

である。ここで、 \approx は、 $\tilde{s}_B^A \wedge e_A^B$ の計算で落ちる項を落とした、という意味である。ただし、

$$\theta^A \wedge \theta^B \wedge e_{CD} = (\delta_C^A \delta_D^B - \delta_D^A \delta_C^B) * 1 \quad (2.31)$$

を用いた。また、

$$\begin{aligned} \tilde{s}_B^4 &= \left[-\frac{1}{2} F_{AC} \theta^A - c_C \theta^4 \right] \wedge \left[\omega_B^C - \frac{1}{2} F_B^C \theta^4 \right] \\ &\approx -\frac{1}{4} F_{AC} F_B^C \theta^4 \wedge \theta^A - c_C \theta^4 \wedge \omega_B^C \end{aligned} \quad (2.32)$$

となる。 \approx は、 $\tilde{s}_B^4 \wedge e_4^B$ の計算で落ちる項を落とした、という意味である。

上の計算より、

$$\begin{aligned} -\tilde{N} &= -N + \left[\frac{1}{4} F_{BA} F^{AB} - 2 \cdot \frac{1}{4} F_{AC} F^{CA} - 2c_A \omega^{AB}_B \right] * 1 \\ &= -N + \left[\frac{1}{4} F_{AB} F^{AB} - 2c_A \omega^{AB}_B \right] * 1 \end{aligned} \quad (2.33)$$

である。 $\tilde{N} = {}^5\mathcal{N} * 1$ と置くと、

$${}^5\mathcal{N} = \mathcal{N} - \frac{1}{4} F_{\mu\nu} F^{\mu\nu} + 2c_\mu \omega^{\mu\nu}_\nu, \quad (2.34)$$

$$F_{\mu\nu} \stackrel{\text{def}}{=} \nabla_\mu A_\nu - \nabla_\nu A_\mu, \quad (2.35)$$

$$\begin{aligned} \nabla_\mu A_\nu &\stackrel{\text{def}}{=} \partial_\mu A_\nu - A_\mu c_\nu \\ &= (\partial_\mu - A_\mu \partial_4) A_\nu \end{aligned} \quad (2.36)$$

となる。クラインの解釈では、

$${}^5\mathcal{N} = \mathcal{N} - \frac{\beta^2}{4} \text{Tr}(\chi_{\mu\nu}\chi^{\mu\nu}) + 2\beta \text{Tr}(\partial_4\chi_\mu)\omega^{\mu\nu}{}_\nu \quad (2.37)$$

となる。 x^4 依存性の仮定より、 $\text{Tr}(\partial_4\chi_\mu) = 0$ であり、上式の最後の項は落ちる。

3 パウリの SO(3) ゲージ理論 (1953 年)

この章の参考文献は [1] である。パウリから A. Pais への手紙を解説する。

4次元時空を M とし、 S^2 を 2次元球面とする。パウリは、 $\tilde{M} \stackrel{\text{def}}{=} M \times S^2$ という 6次元空間を考えた。カルツァ・クライン理論は、 $M \times S^1$ の理論なので、その自然な拡張である。

M の座標を x^μ 、 S^2 の座標を y^a ($a = 1, 2, 3$ で $(y^1)^2 + (y^2)^2 + (y^3)^2 = r^2$, r は定数) とし、 $z^A = (x^\mu, y^a)$ とする。この節では、ギリシャ文字の添え字は 0, 1, 2, 3 を表し、ラテン小文字の添え字は 1, 2, 3 を表すものとする。 \tilde{M} の計量を $g_{AB}(z)$ とすると、その変換則は、

$$g'_{AB}(z') = \frac{\partial z^I}{\partial z'^A} \frac{\partial z^J}{\partial z'^B} g_{IJ} \quad (3.1)$$

である。特に、座標変換

$$(x^\mu, y^a) \rightarrow (x^\mu, y'^a), \quad y^a = R^a_b(x) y'^b \quad (3.2)$$

を考える。 $R^a_b(x)$ は SO(3) の元である。この時、

$$g'_{ab} = R^c_a R^d_b g_{cd} = R^c_a R^d_b \delta_{cd} = \delta_{ab}, \quad (3.3)$$

$$g'_{a\mu} = R^b_a \left(g_{b\mu} + \frac{\partial R^c_d}{\partial x^\mu} y^d g_{bc} \right) \quad (3.4)$$

である。 $g_{bc} = \delta_{bc}$ である。今、

$$g_{a\mu} = A_{ab\mu}(x) y^b \quad (3.5)$$

を仮定する。 $A_{ab\mu}(x)$ は y^c に依らない。このとき、

$$g'_{a\mu} = A'_{ab\mu} y'^b \quad (3.6)$$

である。一方、(3.4) より、

$$g'_{a\mu} = R^c_a \left(A_{cd\mu} R^d_b + \frac{\partial R^d_b}{\partial x^\mu} \delta_{cd} \right) y'^b \quad (3.7)$$

なので、

$$A'_{ab\mu} = R^c_a A_{cd\mu} R^d_b + R^c_a \delta_{cd} \frac{\partial R^d_b}{\partial x^\mu} \quad (3.8)$$

を得る。これは、

$$\begin{aligned} A'^a_{b\mu} &= R^a_c A^c_{d\mu} R^d_b + R^a_c \frac{\partial R^c_b}{\partial x^\mu} \\ &= (R^{-1})^a_c A^c_{d\mu} R^d_b + (R^{-1})^a_c \frac{\partial R^c_b}{\partial x^\mu} \end{aligned} \quad (3.9)$$

とも書ける。添え字の上げ下げは δ_{ab} , δ^{ab} で行った。(3.2), (3.4) を書き直すと、

$$y'^a = S^a_b(x) y^b, \quad (3.10)$$

$$A'_\mu = \mathbf{S} A_\mu \mathbf{S}^{-1} - \partial_\mu \mathbf{S} \cdot \mathbf{S}^{-1} \quad (3.11)$$

となる。ただし、 $\mathbf{S} = (S^a_b)$ のような行列を用いた。 $\mathbf{S} = \mathbf{R}^{-1}$ である。(3.11) は $\text{SO}(3)$ のゲージ場の変換則である。つまり、 $A^a_{b\mu}$ は $\text{SO}(3)$ のゲージ場である²⁾。

パウリは、

$$F^a_{b\mu\nu} = \partial_\mu A^a_{b\nu} - \partial_\nu A^a_{b\mu} + A^a_{c\mu} A^c_{b\nu} - A^a_{c\nu} A^c_{b\mu} \quad (3.12)$$

を場の強さとした。実際、これは $\text{SO}(3)$ のゲージ場の強さである。

²⁾ $g_{a\mu}$ を $A_{ab\mu}(x)y^b$ と展開した時の係数が $\text{SO}(3)$ ゲージ場となる。カクツァ・クライン理論では、 $g_{4\mu}$ が電磁場 ($\text{U}(1)$ ゲージ場) なのであった。

4 非可換カルツァ・クライン理論：藤井『超重力理論入門』

藤井『超重力理論入門』[2]の、カルツァ・クライン理論の非可換ゲージ場版を解説する。

4.1 設定

時空 M と内部空間 N の積 $\tilde{M} = M \times N$ を考える。 M の座標 $x^{\tilde{\alpha}}$ とし、 N の座標を y^μ とし、 $z^{\Xi} = (x^{\tilde{\alpha}}, y^\mu)$ とする。 M の計量を

$$\eta_{ab}\theta^a\theta^b \quad (4.1)$$

とし、 \tilde{M} の計量を

$$\eta_{AB}\theta^A\theta^B \quad (\mathcal{A} = (a, A)) \quad (4.2)$$

とする。また、

$$\theta^A = \theta^A_{\Xi} dz^{\Xi} \quad (4.3)$$

であり、

$$\theta^a_{\tilde{\alpha}} = b^a_{\tilde{\alpha}}(x), \quad (4.4)$$

$$\theta^a_{\mu} = 0, \quad (4.5)$$

$$\theta^A_{\mu} = h^A_{\mu}(y), \quad (4.6)$$

$$\theta^A_{\tilde{\alpha}} = K^A_r(y)A^r_{\tilde{\alpha}}(x) \quad (4.7)$$

である [2]。 r はゲージ場のラベルである。 $K^A_r(y)$ はキリングベクトルで、

$$K^{\mu}_r \partial_{\mu} K^{\nu}_s - K^{\mu}_s \partial_{\mu} K^{\nu}_r = -f^t_{rs} K^{\nu}_t, \quad (4.8)$$

$$K^{\mu}_r = (h^{-1})^{\mu}_A K^A_r \quad (4.9)$$

を満たす。この時、

$$K^A_r = h^A_{\nu} K^{\nu}_r \quad (4.10)$$

であり、

$$\partial_{\mu} K^A_r = \partial_{\mu} h^A_{\nu} K^{\nu}_r + h^A_{\nu} \partial_{\mu} K^{\nu}_r \quad (4.11)$$

となる。なお、

$$\theta^A = h^A_{\mu} dy^{\mu} + K^A_r A^r \quad (4.12)$$

である。ここで、

$$A^r \stackrel{\text{def}}{=} A^r_{\tilde{\alpha}} dx^{\tilde{\alpha}} = A^r_a \theta^a \quad (4.13)$$

とした。

以下、ラテン小文字の上げ下げは η_{ab} とその逆で行い、ラテン大文字の上げ下げは η^{AB} とその逆で行う。

4.2 $\tilde{\omega}^a_{BC}$

この章の以下の計算は [3] を参考にした。

今、

$$d\theta^A = -\tilde{\omega}^A_B \wedge \theta^B, \quad (4.14)$$

$$d\theta^a = -\omega^a_b \wedge \theta^b \quad (4.15)$$

によって、 $\tilde{\omega}^A_B, \omega^a_b$ を定める。また、

$$\tilde{\omega}^A_B = \tilde{\omega}^A_{BC} \theta^C, \quad \omega^a_b = \omega^a_{bc} \theta^c \quad (4.16)$$

と置くと、

$$\begin{aligned} -\tilde{\omega}^A_B \wedge \theta^B &= -\tilde{\omega}^A_{BC} \theta^C \wedge \theta^B \\ &= -\tilde{\omega}^A_{bc} \theta^c \wedge \theta^b - (\tilde{\omega}^A_{bC} - \tilde{\omega}^A_{Cb}) \theta^C \wedge \theta^b - \tilde{\omega}^A_{BC} \theta^B \wedge \theta^C \end{aligned} \quad (4.17)$$

である。よって、

$$\tilde{\omega}^a_{bc} = \omega^a_{bc}, \quad (4.18)$$

$$\tilde{\omega}^a_{bC} = \tilde{\omega}^a_{Cb}, \quad (4.19)$$

$$\tilde{\omega}^a_{BC} = \tilde{\omega}^a_{CB} \quad (4.20)$$

を得る³⁾。

4.3 $\tilde{\omega}^A_{BC}$

また、

$$d\theta^A = \partial_{[\mu} h^A_{\nu]} dy^\mu \wedge dy^\nu + \partial_\mu K^A_r dy^\mu \wedge A^r + K^A_r dA^r \quad (4.22)$$

である。ところで、

$$h^A_\mu dy^\mu = \theta^A - K^A_r A^r, \quad (4.23)$$

$$dy^\mu = (h^{-1})^\mu_A (\theta^A - K^A_r A^r) \quad (4.24)$$

である。よって、

$$\begin{aligned} \partial_\mu K^A_r dy^\mu &= (h^{-1})^\mu_B (\theta^B - K^B_s A^s) \partial_\mu K^A_r \\ &= (h^{-1})^\mu_B \partial_\mu K^A_r \theta^B - A^s (h^{-1})^\mu_B K^B_s \partial_\mu K^A_r \\ &\equiv \partial_B K^A_r \theta^B - A^s (h^{-1})^\mu_B K^B_s \partial_\mu K^A_r \\ &= \partial_B K^A_r \theta^B - A^s K^\mu_s \partial_\mu K^A_r \end{aligned} \quad (4.25)$$

³⁾正確には、

$$\tilde{\omega}^a_{[bc]} = \omega^a_{[bc]} \quad (4.21)$$

しか言えない。 $\tilde{\omega}^a_{bc} = \omega^a_{bc}$ は、 $\tilde{\omega}^a_{bc}$ を多脚場の微分から計算して分かる。

となる。これより、

$$\begin{aligned}\partial_\mu K_r^A dy^\mu \wedge A^r &= \partial_B K_r^A \theta^B \wedge A^r - K_{[s}^\mu \partial_\mu K_r^A] A^s \wedge A^r \\ &= \partial_B K_r^A \theta^B \wedge A^r - K_{[s}^\mu \partial_\mu K_r^A] A^s \wedge A^r\end{aligned}\quad (4.26)$$

である。ここで、

$$K_s^\mu \partial_\mu K_r^A = K_s^\mu \partial_\mu h_\nu^A K_r^\nu + h_\nu^A K_s^\mu \partial_\mu K_r^\nu \quad (4.27)$$

なので、

$$\begin{aligned}K_{[s}^\mu \partial_\mu K_r^A] &= K_s^\mu \partial_{[\mu} h_{\nu]}^A K_r^\nu - h_\nu^A \frac{1}{2} f_{sr}^t K_t^\nu \\ &= K_s^\mu \partial_{[\mu} h_{\nu]}^A K_r^\nu - \frac{1}{2} f_{sr}^t K_t^A\end{aligned}\quad (4.28)$$

となる。よって、

$$\partial_\mu K_r^A dy^\mu \wedge A^r = \partial_B K_r^A \theta^B \wedge A^r - A^s \wedge A^r K_s^\mu \partial_{[\mu} h_{\nu]}^A K_r^\nu + \frac{1}{2} f_{sr}^t K_t^A A^s \wedge A^r \quad (4.29)$$

となる。また、

$$\begin{aligned}\partial_{[\mu} h_{\nu]}^A dy^\mu \wedge dy^\nu &= \partial_{[\mu} h_{\nu]}^A (h^{-1})^\mu_B (\theta^B - K_r^B A^r) \wedge (h^{-1})^\nu_C (\theta^C - K_s^C A^s) \\ &= \partial_{[\mu} h_{\nu]}^A (h^{-1})^\mu_B (h^{-1})^\nu_C \theta^B \wedge \theta^C \\ &\quad - \partial_{[\mu} h_{\nu]}^A (h^{-1})^\nu_C K_r^\mu A^r \wedge \theta^C - \partial_{[\mu} h_{\nu]}^A (h^{-1})^\mu_B K_s^\nu \theta^B \wedge A^s \\ &\quad + \partial_{[\mu} h_{\nu]}^A K_r^\mu K_s^\nu A^r \wedge A^s\end{aligned}\quad (4.30)$$

である。今、

$$H_{\mu\nu}^A \stackrel{\text{def}}{=} \partial_{[\mu} h_{\nu]}^A, \quad (4.31)$$

$$H_{BC}^A \stackrel{\text{def}}{=} H_{\mu\nu}^A (h^{-1})^\mu_B (h^{-1})^\nu_C \quad (4.32)$$

のように記号を定めると、

$$\begin{aligned}\partial_{[\mu} h_{\nu]}^A dy^\mu \wedge dy^\nu &= H_{BC}^A \theta^B \wedge \theta^C - H_{BC}^A K_r^B A^r \wedge \theta^C - H_{BC}^A K_s^C \theta^B \wedge A^s \\ &\quad + \partial_{[\mu} h_{\nu]}^A K_r^\mu K_s^\nu A^r \wedge A^s\end{aligned}\quad (4.33)$$

となる。よって、

$$\begin{aligned}d\theta^A &= H_{BC}^A \theta^B \wedge \theta^C - H_{BC}^A K_r^B A^r \wedge \theta^C - H_{BC}^A K_s^C \theta^B \wedge A^s \\ &\quad \partial_B K_r^A \theta^B \wedge A^r + \frac{1}{2} f_{sr}^t K_t^A A^s \wedge A^r + K_r^A dA^r \\ &= H_{[BC]}^A \theta^B \wedge \theta^C + \left[\partial_B K_r^A \theta^B + 2H_{[BC]}^A K_r^B \theta^C \right] \wedge A^r \\ &\quad + K_r^A F^r,\end{aligned}\quad (4.34)$$

$$F^r \stackrel{\text{def}}{=} dA^r + \frac{1}{2} f_{st}^r A^s \wedge A^t \quad (4.35)$$

を得る。ところで、

$$\omega_{BC}^A \stackrel{\text{def}}{=} H_{BC}^A + 2\eta_{D(B}\partial_{[\beta}h_{\alpha]}^D(h^{-1})^{A\alpha}(h^{-1})^\beta_{C)} \quad (4.36)$$

とすると、 $\omega_{[BC]}^A = H_{BC}^A$ である。よって、

$$\begin{aligned} d\theta^A &= \omega_{BC}^A \theta^B \wedge \theta^C + \left[\partial_C K_r^A + 2\omega_{[BC]}^A K_r^B \right] \theta^C \wedge A^r_b \theta^b \\ &\quad + K_r^A \frac{1}{2} F^r_{bc} \theta^b \wedge \theta^c \end{aligned} \quad (4.37)$$

となる。ここで、

$$F^r = \frac{1}{2} F^r_{bc} \theta^b \wedge \theta^c \quad (4.38)$$

と置いた。よって、

$$\tilde{\omega}_{BC}^A = \omega_{BC}^A, \quad (4.39)$$

$$\tilde{\omega}_{bc}^A = \frac{1}{2} K_r^A F^r_{bc}, \quad (4.40)$$

$$\tilde{\omega}_{Cb}^A - \tilde{\omega}_{bC}^A = \left[\partial_C K_r^A + 2\omega_{[BC]}^A K_r^B \right] A^r_b \quad (4.41)$$

を得る⁴⁾。

4.4 $\tilde{\omega}_{AB}$

(4.41) は、

$$\tilde{\omega}_{ACb} + \tilde{\omega}_{bAC} = \left[\partial_C K_{Ar} + 2H_{ABC} K_r^B \right] A^r_b \quad (4.43)$$

と書き直せる。(4.20) より、 $\tilde{\omega}_{b[AC]} = 0$ なので、

$$\tilde{\omega}_{ACb} = \left[\partial_{[C} K_{A]r} - 2H_{[AC]B} K_r^B \right] A^r_b \quad (4.44)$$

を得る。よって、

$$\tilde{\omega}_{bAC} = \left[\partial_{(C} K_{A)r} - 2H_{(AC)B} K_r^B \right] A^r_b \quad (4.45)$$

となる。

⁴⁾正確には、

$$\tilde{\omega}_{[BC]}^A = \omega_{[BC]}^A \quad (4.42)$$

しか言えない。 $\tilde{\omega}_{BC}^A \omega_{BC}^A$ は、 $\tilde{\omega}_{BC}^A$ を多脚場の微分から計算して分かる。

$$\begin{aligned}
\tilde{\omega}_{ab} &= \omega_{ab} + \tilde{\omega}_{abC}\theta^C \\
&= \omega_{ab} + \tilde{\omega}_{aCb}\theta^C \\
&= \omega_{ab} - \tilde{\omega}_{Cab}\theta^C \\
&= \omega_{ab} - \frac{1}{2}K_{Ar}F^r{}_{ab}\theta^A \\
&\equiv \omega_{ab} + A_{ab}
\end{aligned} \tag{4.46}$$

$$\begin{aligned}
\tilde{\omega}_{AB} &= \omega_{AB} + \tilde{\omega}_{ABc}\theta^c \\
&= \omega_{AB} + \left[\partial_{[B}K_{A]r} - 2H_{[AB]C}K^C{}_r \right] A^r \\
&\equiv \omega_{AB} + A_{AB}
\end{aligned} \tag{4.47}$$

$$\begin{aligned}
\tilde{\omega}_{Ab} &= \tilde{\omega}_{Aba}\theta^a + \tilde{\omega}_{AbC}\theta^C \\
&= \tilde{\omega}_{Aba}\theta^a - \tilde{\omega}_{bAC}\theta^C \\
&= \frac{1}{2}K_{Ar}F^r{}_{ba}\theta^a - \left[\partial_{(C}K_{A)r} - 2H_{(AC)B}K^B{}_r \right] A^r \theta^C \\
&\equiv \omega_{Ab} + A_{Ab}
\end{aligned} \tag{4.48}$$

4.5 \tilde{N}

$$S_{AB} \stackrel{\text{def}}{=} \tilde{\omega}_{AC} \wedge \tilde{\omega}^C{}_B, \tag{4.49}$$

$$\begin{aligned}
\tilde{N} &\stackrel{\text{def}}{=} S_{AB} \wedge e^{BA} \\
&= S_{ab} \wedge e^{ba} + 2S_{aB} \wedge e^{Ba} + S_{AB} \wedge e^{BA} \\
&\equiv N_1 + 2N_2 + N_3
\end{aligned} \tag{4.50}$$

とする。ここで、

$$e^{BA} \stackrel{\text{def}}{=} *(\theta^B \wedge \theta^A) \tag{4.51}$$

である。また、

$$\Omega \stackrel{\text{def}}{=} *1 \tag{4.52}$$

とし、 $\tilde{N} = \tilde{N}\Omega$ と置く。このとき、

$$\theta^{A'B'} \wedge e^{AB} = (\eta^{A'A}\eta^{B'B} - \eta^{A'B}\eta^{B'A})\Omega \tag{4.53}$$

である。

4.5.1 N_1

$$\begin{aligned}
S_{ab} &= \tilde{\omega}_{ac} \wedge \tilde{\omega}_b^c \\
&= \tilde{\omega}_{ac} \wedge \tilde{\omega}_b^c - \tilde{\omega}_{Ca} \wedge \tilde{\omega}_b^C \\
&= (\omega_{ac} + A_{ac}) \wedge (\omega_b^c + A_b^c) - (\omega_{Ca} + A_{Ca}) \wedge (\omega_b^C + A_b^C) \\
&\approx \omega_{ac} \wedge \omega_b^c - \omega_{Ca} \wedge \omega_b^C.
\end{aligned} \tag{4.54}$$

ここで、 \approx は N_1 の計算に不要な項を落とした、という意味である。よって、

$$\begin{aligned}
N_1 &= N - \frac{1}{4} K_{Ar} F_{ad}^r K_s^A F_{be}^s (\eta^{db} \eta^{ea} - \eta^{da} \eta^{eb}) \Omega \\
&= N - \frac{1}{4} \kappa_{rs}(y) F_{ab}^r F^{s,ba} \Omega \\
&= N + \frac{1}{4} \kappa_{rs}(y) F_{ab}^r F^{s,ab} \Omega
\end{aligned} \tag{4.55}$$

となる。ここで、

$$\kappa_{rs} \stackrel{\text{def}}{=} K_{Ar} K_s^A \tag{4.56}$$

であり、

$$N \stackrel{\text{def}}{=} \omega_{ac} \wedge \omega_b^c \wedge e^{ba} \equiv \mathcal{N} \Omega \tag{4.57}$$

とした。

4.5.2 N_2

$$\begin{aligned}
S_{aB} &= \tilde{\omega}_{ac} \wedge \tilde{\omega}_B^c \\
&= \tilde{\omega}_{ac} \wedge \tilde{\omega}_B^c - \tilde{\omega}_{Ca} \wedge \tilde{\omega}_B^C \\
&= -(\omega_{ac} + A_{ac}) \wedge (\omega_B^c + A_B^c) - (\omega_{Ca} + A_{Ca}) \wedge (\omega_B^C + A_B^C) \\
&\approx -\omega_{ac} \wedge A_B^c - A_{ac} \wedge \omega_B^c - \omega_{Ca} \wedge \omega_B^C - A_{Ca} \wedge A_B^C \\
&= -A_{ac} \wedge \omega_B^c + A_B^c \wedge \omega_{ac} + \omega_B^C \wedge \omega_{Ca} - A_{Ca} \wedge A_B^C
\end{aligned} \tag{4.58}$$

$$\begin{aligned}
N_2 &= S_{aB} \wedge e^{Ba} \\
&= (-A_{ac}^B \omega_B^{ca} + A_B^{cB} \omega_{ac}^a + \omega_B^{C B} \omega_{Ca}^a - A_{Ca}^B A_B^{C a}) \Omega \\
&= \left(-\frac{1}{4} \kappa_{rs}(y) F_{ab}^r F^{s,ab} + A_B^{cB} \omega_{ac}^a + \omega_B^{C B} \omega_{Ca}^a - A_{CaB} A^{CBa} \right) \Omega \\
&= \left(-\frac{1}{4} \kappa_{rs}(y) F_{ab}^r F^{s,ab} + A_B^{cB} \omega_{ac}^a \right) \Omega.
\end{aligned} \tag{4.59}$$

ω_{Cab} は a, b について反対称なので、 $\omega_{Ca}^a = 0$ であり、 A_{CaB} , A^{CBa} は C, B についてそれぞれ対称、反対称なので、 $A_{CaB} A^{CBa} = 0$ である。

よって、

$$N_1 + 2N_2 = N - \frac{1}{4} \kappa_{rs}(y) F_{ab}^r F^{s,ab} \Omega + 2A_B^{cB} \omega_{ac}^a \Omega \tag{4.60}$$

4.5.3 N_3

$$\begin{aligned}
S_{AB} &= \tilde{\omega}_{AC} \wedge \tilde{\omega}_B^c \\
&= \tilde{\omega}_{AC} \wedge \tilde{\omega}_B^C - \tilde{\omega}_{Ac} \wedge \tilde{\omega}_B^c \\
&= (\omega_{AC} + A_{AC}) \wedge (\omega_B^C + A_B^C) - (\omega_{Ac} + A_{Ac}) \wedge (\omega_B^c + A_B^c) \\
&\approx \omega_{AC} \wedge \omega_B^C - A_{Ac} \wedge A_B^c.
\end{aligned} \tag{4.61}$$

よって、

$$N_3 = N' - A_{Ac} \wedge A_B^c \wedge e^{BA}, \tag{4.62}$$

$$N' \stackrel{\text{def}}{=} \omega_{AC} \wedge \omega_B^C \wedge e^{BA} \equiv \mathcal{N}'(y)\Omega \tag{4.63}$$

となる。

$$\begin{aligned}
\tilde{N} &= N + N' - \frac{1}{4}\kappa_{rs}(y)F_{ab}^r F^{s,ab}\Omega + 2A_B^{cB}\omega_{ac}{}^a\Omega - A_{Ac} \wedge A_B^c \wedge e^{BA} \\
&\equiv (\mathcal{N} + \mathcal{N}'(y) - \frac{1}{4}\kappa_{rs}(y)F_{ab}^r F^{s,ab})\Omega + 2A_B^{cB}\omega_{ac}{}^a\Omega - A_{Ac} \wedge A_B^c \wedge e^{BA}
\end{aligned} \tag{4.64}$$

最後の2項が余分だが、実は以下に述べる理由で0となる。

4.5.4 キリング条件

付録Cで示すように、キリング条件

$$\nabla_{(\mu}K_{\nu)r} = 0 \quad (K_{\nu r} = h^A{}_{\nu}K_{Ar}) \tag{4.65}$$

と

$$\partial_{(C}K_{A)r} - 2H_{(AC)B}K_r^B = 0 \tag{4.66}$$

が等価なので、

$$A_{Bc} = 0 \tag{4.67}$$

であり、

$$\tilde{\mathcal{N}} = \mathcal{N} + \mathcal{N}'(y) - \frac{1}{4}\kappa_{rs}(y)F_{ab}^r F^{s,ab} \tag{4.68}$$

となる。

5 非可換カルツァ・クライン理論：内山『一般ゲージ場論序説』

内山『一般ゲージ場論序説』[4]の、カルツァ・クライン理論の非可換ゲージ場版を解説する。

5.1 設定

§ 4.1 の記号を使う。ただし、内部空間の次元はゲージ場の数と同じとする。 \tilde{M} の計量 $\gamma_{\Xi\Sigma}$ は、

$$\gamma_{\tilde{\alpha}\tilde{\beta}} = g_{\tilde{\alpha}\tilde{\beta}} + \kappa_{\mu\nu} A^{\mu}_{\tilde{\alpha}} A^{\nu}_{\tilde{\beta}}, \quad (5.1)$$

$$\gamma_{\tilde{\alpha}\mu} = A^{\nu}_{\tilde{\alpha}} M_{\nu\mu}(y), \quad (5.2)$$

$$\gamma_{\mu\nu} = M^{\lambda}_{\mu} M_{\lambda\nu}, \quad (5.3)$$

$$M^{\mu}_{\nu} \stackrel{\text{def}}{=} (L^{-1})^{\mu}_{\nu} \quad (5.4)$$

である。ギリシャ小文字の上げ下げは $\kappa_{\mu\nu}$ とその逆で行った。ただし、

$$\kappa_{\mu\nu} = -f^{\lambda}_{\mu\sigma} f^{\sigma}_{\nu\lambda} \quad (5.5)$$

であり、 $f^{\lambda}_{\mu\sigma}$ は群の構造定数である。 $f_{\lambda\mu\nu} = \kappa_{\lambda\delta} f^{\delta}_{\mu\nu}$ は完全反対称である。また、 L^{μ}_{ν} は、

$$\partial_{\alpha} L^{\lambda}_{\mu} L^{\alpha}_{\nu} - \partial_{\alpha} L^{\lambda}_{\nu} L^{\alpha}_{\mu} = f^{\sigma}_{\mu\nu} L^{\lambda}_{\sigma} \quad (5.6)$$

を満たす。

計量は、

$$\gamma_{\Xi\Sigma} dz^{\Xi} dz^{\Sigma} = g_{\tilde{\alpha}\tilde{\beta}} dx^{\tilde{\alpha}} dx^{\tilde{\beta}} + \gamma_{\mu\nu} dw^{\mu} dw^{\nu}, \quad (5.7)$$

$$dw^{\mu} = dy^{\mu} + L^{\mu}_{\nu} A^{\nu}_{\tilde{\alpha}} dx^{\tilde{\alpha}} \quad (5.8)$$

となる。今、

$$g_{\tilde{\alpha}\tilde{\beta}} = \eta_{ab} \theta^a_{\tilde{\alpha}} \theta^b_{\tilde{\beta}}, \quad (5.9)$$

$$\gamma_{\mu\nu} = \eta_{AB} \theta^A_{\mu} \theta^B_{\nu}, \quad (5.10)$$

$$\theta^a \stackrel{\text{def}}{=} \theta^a_{\tilde{\alpha}} dx^{\tilde{\alpha}}, \quad (5.11)$$

$$\begin{aligned} \theta^A &\stackrel{\text{def}}{=} \theta^A_{\mu} dw^{\mu} \\ &= \theta^A_{\mu} (dy^{\mu} + L^{\mu}_{\nu} A^{\nu}), \quad A^{\nu} = A^{\nu}_{\tilde{\alpha}} dx^{\tilde{\alpha}} \end{aligned} \quad (5.12)$$

とすると、

$$\gamma_{\Xi\Sigma} dz^{\Xi} dz^{\Sigma} = \eta_{AB} \theta^A \theta^B \quad (5.13)$$

となる。今、

$$\kappa_{\mu\nu} = \eta_{AB} U^A_{\mu} U^B_{\nu} \quad (5.14)$$

と展開すると、

$$\theta^A_\mu = U^A_\nu M^\nu_\mu \quad (5.15)$$

である。よって、

$$\begin{aligned} \theta^A &= U^A_\nu (M^\nu_\mu dy^\mu + M^\nu_\mu L^\mu_\lambda A^\lambda) \\ &= U^A_\nu (M^\nu_\mu dy^\mu + A^\nu) \end{aligned} \quad (5.16)$$

を得る。

以下、ラテン小文字の上げ下げは η_{ab} とその逆で行い、ラテン大文字の上げ下げは η^{AB} とその逆で行う。

5.2 $\tilde{\omega}^A_B$

§ 4.2 と同様にして、

$$\tilde{\omega}^a_{bc} = \omega^a_{bc}, \quad (5.17)$$

$$\tilde{\omega}^a_{bC} = \tilde{\omega}^a_{Cb}, \quad (5.18)$$

$$\tilde{\omega}^a_{BC} = \tilde{\omega}^a_{CB} \quad (5.19)$$

を得る。

また、

$$d\theta^A = U^A_\nu (\partial_{[\lambda} M^\nu_{\mu]} dy^\lambda \wedge dy^\mu + dA^\nu) \quad (5.20)$$

である。ところで、

$$M^\nu_\mu L^\mu_\alpha = \delta^\nu_\alpha \quad (5.21)$$

を微分して、

$$\partial_\lambda M^\nu_\mu L^\mu_\alpha + M^\nu_\mu \partial_\lambda L^\mu_\alpha = 0, \quad (5.22)$$

$$\partial_\lambda L^\mu_\alpha = -L^\mu_\nu \partial_\lambda M^\nu_\beta L^\beta_\alpha \quad (5.23)$$

を得る。よって、(5.6), 即ち、

$$\partial_\alpha L^\lambda_{[\mu} L^\alpha_{\nu]} = \frac{1}{2} f^\sigma_{\mu\nu} L^\lambda_\sigma \quad (5.24)$$

は、

$$\begin{aligned} L^\lambda_\gamma \partial_\alpha M^\gamma_\beta L^\beta_{[\mu} L^\alpha_{\nu]} &= -\frac{1}{2} f^\sigma_{\mu\nu} L^\lambda_\sigma, \\ L^\lambda_\gamma \partial_{[\alpha} M^\gamma_{\beta]} L^\beta_\mu L^\alpha_\nu &= -\frac{1}{2} f^\sigma_{\mu\nu} L^\lambda_\sigma, \\ \partial_{[\alpha} M^\gamma_{\beta]} L^\beta_\mu L^\alpha_\nu &= -\frac{1}{2} f^\gamma_{\mu\nu}, \\ \partial_{[\alpha} M^\gamma_{\beta]} L^\alpha_\mu L^\beta_\nu &= \frac{1}{2} f^\gamma_{\mu\nu} \end{aligned} \quad (5.25)$$

となる。一方、

$$\begin{aligned} U^A_\nu M^\nu_\mu dy^\mu &= \theta^A - U^A_\nu A^\nu \\ dy^\mu &= L^\mu_\nu [V^\nu_A \theta^A - A^\nu], \quad V^\nu_A \stackrel{\text{def}}{=} (U^{-1})^\nu_A \end{aligned} \quad (5.26)$$

である。よって、

$$\begin{aligned} \partial_{[\lambda} M^\nu_{\mu]} dy^\lambda \wedge dy^\mu &= \partial_{[\lambda} M^\nu_{\mu]} L^\lambda_\alpha [V^\alpha_A \theta^A - A^\alpha] \wedge L^\mu_\beta [V^\beta_V \theta^B - A^\beta] \\ &= \frac{1}{2} f^\nu_{\alpha\beta} [V^\alpha_A \theta^A - A^\alpha] \wedge [V^\beta_V \theta^B - A^\beta] \\ &= \frac{1}{2} f^\nu_{\alpha\beta} V^\alpha_A V^\beta_V \theta^A \wedge \theta^B + \frac{1}{2} f^\nu_{\alpha\beta} A^\alpha \wedge A^\beta \\ &\quad - f^\nu_{\alpha\beta} V^\alpha_A \theta^A \wedge A^\beta \end{aligned} \quad (5.27)$$

となる。したがって、

$$\begin{aligned} d\theta^A &= U^A_\nu \frac{1}{2} f^\nu_{\alpha\beta} (V^\alpha_B V^\beta_C \theta^B \wedge \theta^C - V^{[\alpha} \theta^B \wedge A^{\beta]}) + U^A_\nu F^\nu \\ &\equiv \frac{1}{2} f^A_{BC} \theta^B \wedge \theta^C - \frac{1}{2} f^A_{B\gamma} \theta^B \wedge A^\gamma + U^A_\nu F^\nu \\ &\equiv \frac{1}{2} f^A_{BC} \theta^B \wedge \theta^C - \frac{1}{2} f^A_{B\gamma} A^\gamma \theta^B \wedge \theta^c + \frac{1}{2} U^A_\nu F^\nu_{bc} \theta^b \wedge \theta^c \end{aligned} \quad (5.28)$$

となる。ここで、

$$F^\nu = dA^\nu + \frac{1}{2} f^\nu_{\alpha\beta} A^\alpha \wedge A^\beta \quad (5.29)$$

である。これより、

$$\tilde{\omega}^A_{BC} = \omega^A_{BC} \stackrel{\text{def}}{=} \frac{1}{2} (f^A_{BC} + 2f_{(BC)}^A), \quad (5.30)$$

$$\tilde{\omega}^A_{bc} = \frac{1}{2} U^A_\nu F^\nu_{bc}, \quad (5.31)$$

$$\tilde{\omega}^A_{cB} - \tilde{\omega}^A_{Bc} = \frac{1}{2} f^A_{B\gamma} A^\gamma_c \quad (5.32)$$

となる⁵⁾。

よって、

$$\begin{aligned} \tilde{\omega}_{ab} &= \omega_{ab} - \frac{1}{2} U_{A\nu} F^\nu_{bc} \theta^A \\ &\equiv \omega_{ab} + A_{ab}. \end{aligned} \quad (5.34)$$

また、(5.32) は

$$\tilde{\omega}_{cAB} + \tilde{\omega}_{ABc} = -\frac{1}{2} f_{AB\gamma} A^\gamma_c \quad (5.35)$$

⁵⁾正確には、

$$\tilde{\omega}^A_{[BC]} = \omega^A_{[BC]} = \frac{1}{2} f^A_{BC} \quad (5.33)$$

までしか言えない。 $\tilde{\omega}^A_{BC} = \omega^A_{BC}$ は多脚場の微分から計算して分かる。

となり、

$$\tilde{\omega}_{ABc} = -\frac{1}{2}f_{[AB]\gamma}A^\gamma{}_c, \quad (5.36)$$

$$\tilde{\omega}_{cAB} = -\frac{1}{2}f_{(AB)\gamma}A^\gamma{}_c \quad (5.37)$$

となる。

よって、

$$\begin{aligned} \tilde{\omega}_{AB} &= \frac{1}{2}f^A{}_{BC}\theta^C - \frac{1}{2}f_{[AB]\gamma}A^\gamma{}_c\theta^c \\ &\equiv \omega_{AB} + A_{AB} \end{aligned} \quad (5.38)$$

および、

$$\begin{aligned} \tilde{\omega}_{Ab} &= \tilde{\omega}_{Abc}\theta^c - \tilde{\omega}_{bAB}\theta^B \\ &= \frac{1}{2}U^A{}_\nu F^\nu{}_{bc}\theta^c + \frac{1}{2}f_{(AB)\gamma}A^\gamma{}_b\theta^B \\ &\equiv \omega_{Ab} + A_{Ab} \end{aligned} \quad (5.39)$$

を得る。

5.3 \tilde{N}

§ 4.5 と同様にして、

$$\begin{aligned} N_1 &= N + \frac{1}{4}U_{A\mu}U^A{}_\nu F^\mu{}_{ab}F^{\nu,ab}\Omega \\ &= N + \frac{1}{4}\kappa_{\mu\nu}F^\mu{}_{ab}F^{\nu,ab}\Omega \end{aligned} \quad (5.40)$$

や、

$$\tilde{N} = N - \frac{1}{4}\kappa_{\mu\nu}F^\mu{}_{ab}F^{\nu,ab}\Omega + N' + N'', \quad (5.41)$$

$$\tilde{\mathcal{N}} = \mathcal{N} - \frac{1}{4}\kappa_{\mu\nu}F^\mu{}_{ab}F^{\nu,ab} + \mathcal{N}' + \mathcal{N}'' \quad (5.42)$$

を得る。ここで、

$$\begin{aligned} N' &= \omega_{AC} \wedge \omega_B^C \wedge e^{BA} \\ &= (\omega_{AC}{}^B \omega_B^C{}^A - \omega_{AC}{}^A \omega_B^C{}^B)\Omega, \end{aligned} \quad (5.43)$$

$$\mathcal{N}' = \omega_{ACB}\omega^{CBA} - \omega_{AC}{}^A \omega_B^C{}^B = \text{const.} \quad (5.44)$$

であり、

$$\begin{aligned} N'' &= 2A_B{}^{cB}\omega_{ac}{}^a\Omega - A_{Ac} \wedge A_B{}^c \wedge e^{BA} \\ &= 2A_B{}^{cB}\omega_{ac}{}^a\Omega + (-A_{Ac}{}^B A_B{}^{cA} + A_{Ac}{}^A A_B{}^{cB})\Omega, \end{aligned} \quad (5.45)$$

$$N''' = 2A_B{}^{cB}\omega_{ac}{}^a - A_{AcB}A^{BcA} + A_{Ac}{}^A A_B{}^{cB} \quad (5.46)$$

である。 $f_{\alpha\beta\gamma} = \kappa_{\alpha\delta} f^{\delta}_{\beta\gamma}$ の完全反対称性から、

$$\begin{aligned} A_{Bc}{}^B &= \frac{1}{2} f^B_{B\gamma} A^{\gamma}_c \\ &= \frac{1}{2} f^{\alpha}_{\alpha\gamma} A^{\gamma}_c \\ &= 0 \end{aligned} \tag{5.47}$$

であり、

$$\begin{aligned} A_{AcB} A^{BcA} &= \frac{1}{4} f_{(AB)\gamma} f^{(AB)}_{\delta} A^{\gamma}_c A^{\delta,c} \\ &= \frac{1}{4} f_{(\alpha\beta)\gamma} f^{(\alpha\beta)}_{\delta} A^{\gamma}_c A^{\delta,c} \\ &= 0 \end{aligned} \tag{5.48}$$

となる。よって、

$$\tilde{\mathcal{N}} = \mathcal{N} - \frac{1}{4} \kappa_{\mu\nu} F^{\mu}_{ab} F^{\nu,ab} + \mathcal{N}', \tag{5.49}$$

$$\begin{aligned} \mathcal{N}' &= \omega_{ABC} \omega^{BCA} - \omega_{AC}{}^A \omega^C{}_B{}^B \\ &= \frac{1}{4} f_{\alpha\beta\gamma} f^{\beta\gamma\alpha} \\ &= \frac{1}{4} f_{\alpha\beta\gamma} f^{\alpha\beta\gamma} = \text{const.} \end{aligned} \tag{5.50}$$

となる。

A 5G の計算

A.1 記号

第1章の設定で考える。

クリストッフエル記号は、

$$\Gamma_{\mu\nu}^{\sigma} = \frac{1}{2}g^{\sigma\lambda}(\partial_{\mu}g_{\lambda\nu} + \partial_{\nu}g_{\lambda\mu} - \partial_{\lambda}g_{\mu\nu}) \equiv g^{\sigma\lambda}\Gamma_{\lambda\mu\nu} \quad (\text{A.1})$$

である。 γ_{ab} に対する $\Gamma_{\lambda\mu\nu}$, $\Gamma_{\mu\nu}^{\sigma}$ を ${}^5\Gamma_{cab}$, ${}^5\Gamma_{ab}^c$ と書く。特に ${}^5\Gamma_{\lambda\mu\nu}$ は、

$${}^5\Gamma_{\lambda\mu\nu} = \Gamma_{\lambda\mu\nu} + \tilde{\Gamma}_{\lambda\mu\nu} \quad (\text{A.2})$$

である。ここで、 $\Gamma_{\lambda\mu\nu}$ は $g_{\mu\nu}$ から計算され、 $\tilde{\Gamma}_{\lambda\mu\nu}$ は $A_{(\mu}A_{\nu)}/\alpha$ から計算されたものである。

以下、

$$f_{\mu\nu} \stackrel{\text{def}}{=} \partial_{\mu}A_{\nu} - \partial_{\nu}A_{\mu}, \quad (\text{A.3})$$

$$S_{\mu\nu} \stackrel{\text{def}}{=} \partial_{\mu}A_{\nu} + \partial_{\nu}A_{\mu}, \quad (\text{A.4})$$

$$c_{\mu} \stackrel{\text{def}}{=} \partial_{\lambda}A_{\mu} \quad (\text{A.5})$$

とする。

A.2 ${}^5\Gamma_{cab}$

まず、 ${}^5\Gamma_{cab}$ を求める。

$$\begin{aligned} \tilde{\Gamma}_{\lambda\mu\nu} &= \frac{1}{4\alpha}(\partial_{\mu}A_{\lambda}A_{\nu} + A_{\lambda}\partial_{\mu}A_{\nu} + \partial_{\nu}A_{\lambda}A_{\mu} + A_{\lambda}\partial_{\nu}A_{\mu} - \partial_{\lambda}A_{\mu}A_{\nu} - A_{\mu}\partial_{\lambda}A_{\nu} + \\ &\quad + \partial_{\mu}A_{\nu}A_{\lambda} + A_{\nu}\partial_{\mu}A_{\lambda} + \partial_{\nu}A_{\mu}A_{\lambda} + A_{\mu}\partial_{\nu}A_{\lambda} - \partial_{\lambda}A_{\nu}A_{\mu} - A_{\nu}\partial_{\lambda}A_{\mu}) \\ &= \frac{1}{4\alpha}(f_{\mu\lambda}A_{\nu} + A_{\lambda}S_{\mu\nu} + f_{\nu\lambda}A_{\mu} + S_{\mu\nu}A_{\lambda} + A_{\nu}f_{\mu\lambda} + A_{\mu}f_{\nu\lambda}) \\ &= \frac{1}{4\alpha}(\{f_{\mu\lambda}, A_{\nu}\} + \{f_{\nu\lambda}, A_{\mu}\} + \{S_{\mu\nu}, A_{\lambda}\}) \\ &\stackrel{\text{w}}{=} \frac{1}{2\alpha}(f_{\mu\lambda}A_{\nu} + f_{\nu\lambda}A_{\mu} + S_{\mu\nu}A_{\lambda}) \end{aligned} \quad (\text{A.6})$$

である。 $\stackrel{\text{w}}{=}$ は A_{μ} を数とみなした場合の等号である。

また、

$$\begin{aligned}
\Gamma_{4\mu\nu} &= \frac{1}{2}(\partial_\mu A_\nu + \partial_\nu A_\mu - \frac{1}{\alpha}\partial_4[A_{(\mu}A_{\nu)}]) \\
&= \frac{1}{2}S_{\mu\nu} - \frac{1}{4\alpha}(\{c_\mu, A_\nu\} + \{A_\mu, c_\nu\}) \\
&\stackrel{\text{w}}{=} \frac{1}{2}S_{\mu\nu} - \frac{1}{2\alpha}(c_\mu A_\nu + A_\mu c_\nu), \tag{A.7}
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
\Gamma_{\lambda 4\nu} &= \frac{1}{2}(\frac{1}{\alpha}\partial_4[A_{(\lambda}A_{\nu)}] + \partial_\nu A_\lambda - \partial_\lambda A_\nu) \\
&= \frac{1}{2}f_{\nu\lambda} + \frac{1}{4\alpha}(\{c_\lambda, A_\nu\} + \{A_\lambda, c_\nu\}) \\
&\stackrel{\text{w}}{=} \frac{1}{2}f_{\nu\lambda} + \frac{1}{2\alpha}(c_\lambda A_\nu + A_\lambda c_\nu), \tag{A.8}
\end{aligned}$$

$$\Gamma_{44\nu} = \frac{1}{2}(\partial_4 A_\nu + \partial_\nu \gamma_{44} - \partial_4 A_\nu) = 0, \tag{A.9}$$

$$\begin{aligned}
\Gamma_{\lambda 44} &= \frac{1}{2}(\partial_4 A_\lambda + \partial_4 A_\lambda - \partial_\lambda g_{44}) \\
&= c_\lambda, \tag{A.10}
\end{aligned}$$

$$\Gamma_{444} = 0. \tag{A.11}$$

A.3 ${}^5\Gamma^c_{ab}$

${}^5\Gamma^c_{ab}$ を求める。

以下、行列のかけ算は可換だと考えて扱う。

$$\begin{aligned}
{}^5\Gamma^\sigma_{\mu\nu} &= g^{\sigma\lambda}(\Gamma_{\lambda\mu\nu} + \tilde{\Gamma}_{\lambda\mu\nu}) + g^{4\sigma}\Gamma_{4\mu\nu} \\
&= \Gamma^\sigma_{\mu\nu} + \frac{1}{2\alpha}(f_\mu^\sigma A_\nu + f_\nu^\sigma A_\mu + S_{\mu\nu}A^\sigma) \\
&\quad - \frac{1}{2\alpha}A^\sigma S_{\mu\nu} + \frac{1}{2\alpha^2}A^\sigma(c_\mu A_\nu + A_\mu c_\nu) \\
&= \Gamma^\sigma_{\mu\nu} + \frac{1}{2\alpha}(f_\mu^\sigma A_\nu + f_\nu^\sigma A_\mu) + \frac{1}{2\alpha^2}A^\sigma(c_\mu A_\nu + A_\mu c_\nu) \\
&= \Gamma^\sigma_{\mu\nu} + \frac{1}{2\alpha}(e_\mu^\sigma A_\nu + e_\nu^\sigma A_\mu). \tag{A.12}
\end{aligned}$$

ここで、

$$e_{\mu\nu} \stackrel{\text{def}}{=} f_{\mu\nu} + \frac{1}{\alpha}c_\mu A_\nu \tag{A.13}$$

$$\begin{aligned}
{}^5\Gamma_{\mu\nu}^4 &= \gamma^{4\lambda}(\Gamma_{\lambda\mu\nu} + \tilde{\Gamma}_{\lambda\mu\nu}) + \gamma^{44}\Gamma_{4\mu\nu} \\
&= -\frac{1}{\alpha}A_\lambda\Gamma_{\mu\nu}^\lambda - A^\lambda\frac{1}{2\alpha^2}(f_{\mu\lambda}A_\nu + f_{\nu\lambda}A_\mu + S_{\mu\nu}A_\lambda) \\
&\quad + \left(\frac{1}{\alpha} + \frac{1}{\alpha^2}A^\gamma A_\gamma\right)\left[\frac{1}{2}S_{\mu\nu} - \frac{1}{2\alpha}(c_\mu A_\nu + A_\mu c_\nu)\right] \\
&= -\frac{1}{\alpha}A_\lambda\Gamma_{\mu\nu}^\lambda - A^\lambda\frac{1}{2\alpha^2}(f_{\mu\lambda}A_\nu + f_{\nu\lambda}A_\mu) + \frac{1}{2\alpha}S_{\mu\nu} - \frac{1}{2\alpha}\left(\frac{1}{\alpha} + \frac{1}{\alpha^2}A^\gamma A_\gamma\right)(c_\mu A_\nu + A_\mu c_\nu) \\
&= -\frac{1}{\alpha}A_\lambda{}^5\Gamma_{\mu\nu}^\lambda + \frac{1}{2\alpha}S_{\mu\nu} - \frac{1}{2\alpha^2}(c_\mu A_\nu + A_\mu c_\nu), \tag{A.14}
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
{}^5\Gamma_{4\nu}^\sigma &= g^{\sigma\lambda}\Gamma_{\lambda 4\nu} + \gamma^{4\sigma}\Gamma_{44\nu} \\
&= \frac{1}{2}f_\nu^\sigma + \frac{1}{2\alpha}(c^\sigma A_\nu + A^\sigma c_\nu), \tag{A.15}
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
{}^5\Gamma_{44}^\sigma &= g^{\sigma\lambda}\Gamma_{\lambda 44} + \gamma^{4\sigma}\Gamma_{444} \\
&= c^\sigma, \tag{A.16}
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
{}^5\Gamma_{4\nu}^4 &= \gamma^{4\lambda}\Gamma_{\lambda 4\nu} + \gamma^{44}\Gamma_{44\nu} \\
&= -\frac{1}{2\alpha}f_{\nu\lambda}A^\lambda - A^\lambda\frac{1}{2\alpha^2}(c_\lambda A_\nu + A_\lambda c_\nu), \tag{A.17}
\end{aligned}$$

$${}^5\Gamma_{44}^4 = \gamma^{4\lambda}\Gamma_{\lambda 44} + \gamma^{44}\Gamma_{444} = 0. \tag{A.18}$$

$$\begin{aligned}
{}^5\Gamma_\mu &\stackrel{\text{def}}{=} {}^5\Gamma_{\mu a}^a \\
&= {}^5\Gamma_{\mu\nu}^\nu + {}^5\Gamma_{\mu 4}^4 \\
&= \Gamma_\mu + \frac{1}{2\alpha}(e_\mu^\nu A_\nu + e_\nu^\mu A_\mu) - \frac{1}{2\alpha}f_{\mu\lambda}A^\lambda - A^\lambda\frac{1}{2\alpha^2}(c_\lambda A_\mu + A_\lambda c_\mu) \\
&= \Gamma_\mu + \frac{1}{2\alpha^2}(c_\mu A^\nu A_\nu + A^\nu c_\nu A_\mu) - A^\lambda\frac{1}{2\alpha^2}(c_\lambda A_\mu + A_\lambda c_\mu) \\
&= \Gamma_\mu. \tag{A.19}
\end{aligned}$$

ここで、 $\Gamma_\mu \stackrel{\text{def}}{=} \Gamma_{\mu\rho}^\rho$.

$$\begin{aligned}
{}^5\Gamma_4 &\stackrel{\text{def}}{=} {}^5\Gamma_{4a}^a \\
&= {}^5\Gamma_{4\alpha}^\alpha \\
&= \frac{1}{2}f_\sigma^\sigma + \frac{1}{2\alpha}(c^\sigma A_\sigma + A^\sigma c_\sigma) \\
&= \frac{1}{\alpha}c^\sigma A_\sigma. \tag{A.20}
\end{aligned}$$

A.4 5G

重力場のラグランジアン密度は、 $G/(2c\kappa)$ である。ここで、

$$\begin{aligned}
G &= g^{\mu\nu}\left[\Gamma_{\gamma\nu}^\rho\Gamma_{\mu\rho}^\gamma - \Gamma_{\gamma\rho}^\rho\Gamma_{\mu\nu}^\gamma\right] \\
&= g^{\mu\nu}\Gamma_{\gamma\nu}^\rho\Gamma_{\mu\rho}^\gamma - g^{\mu\nu}\Gamma_\alpha^\alpha\Gamma_{\mu\nu}^\alpha \tag{A.21}
\end{aligned}$$

である。5次元の対応物は、

$$\begin{aligned} {}^5G &= {}^5\Gamma_{cb}^d {}^5\Gamma_{ad}^c \gamma^{ab} - {}^5\Gamma_c {}^5\Gamma_{ab}^c \gamma^{ab} \\ &\equiv {}^5G_1 - {}^5G_2 \end{aligned} \quad (\text{A.22})$$

である。

$$\begin{aligned} {}^5G_1 &= {}^5\Gamma_{cb}^d {}^5\Gamma_{ad}^c g^{\alpha\beta} + {}^5\Gamma_{cb}^d {}^5\Gamma_{4d}^c \gamma^{4\beta} + {}^5\Gamma_{c4}^d {}^5\Gamma_{ad}^c \gamma^{\alpha 4} + {}^5\Gamma_{c4}^d {}^5\Gamma_{4d}^c \gamma^{44} \\ &= {}^5\Gamma_{\gamma\beta}^\delta {}^5\Gamma_{\alpha\delta}^\gamma g^{\alpha\beta} + {}^5\Gamma_{4\beta}^\delta {}^5\Gamma_{\alpha\delta}^4 g^{\alpha\beta} + {}^5\Gamma_{\gamma\beta}^4 {}^5\Gamma_{\alpha 4}^\gamma g^{\alpha\beta} + {}^5\Gamma_{4\beta}^4 {}^5\Gamma_{\alpha 4}^4 g^{\alpha\beta} \\ &\quad + {}^5\Gamma_{\gamma\beta}^\delta {}^5\Gamma_{4\delta}^\gamma \gamma^{4\beta} + {}^5\Gamma_{4\beta}^\delta {}^5\Gamma_{4\delta}^4 \gamma^{4\beta} + {}^5\Gamma_{\gamma\beta}^4 {}^5\Gamma_{44}^\gamma \gamma^{4\beta} + {}^5\Gamma_{4\beta}^4 {}^5\Gamma_{44}^4 \gamma^{4\beta} \\ &\quad + {}^5\Gamma_{\gamma 4}^\delta {}^5\Gamma_{\alpha\delta}^\gamma \gamma^{\alpha 4} + {}^5\Gamma_{44}^\delta {}^5\Gamma_{\alpha\delta}^4 \gamma^{\alpha 4} + {}^5\Gamma_{\gamma 4}^4 {}^5\Gamma_{\alpha 4}^\gamma \gamma^{\alpha 4} + {}^5\Gamma_{44}^4 {}^5\Gamma_{\alpha 4}^4 \gamma^{\alpha 4} \\ &\quad + {}^5\Gamma_{\gamma 4}^\delta {}^5\Gamma_{4\delta}^\gamma \gamma^{44} + {}^5\Gamma_{44}^\delta {}^5\Gamma_{4\delta}^4 \gamma^{44} + {}^5\Gamma_{\gamma 4}^4 {}^5\Gamma_{44}^\gamma \gamma^{44} + {}^5\Gamma_{44}^4 {}^5\Gamma_{44}^4 \gamma^{44} \\ &= {}^5\Gamma_{\gamma\beta}^\delta {}^5\Gamma_{\alpha\delta}^\gamma g^{\alpha\beta} + 2 \cdot {}^5\Gamma_{4\beta}^\delta {}^5\Gamma_{\alpha\delta}^4 g^{\alpha\beta} + {}^5\Gamma_{4\beta}^4 {}^5\Gamma_{\alpha 4}^4 g^{\alpha\beta} \\ &\quad + 2 \cdot {}^5\Gamma_{\gamma\beta}^\delta {}^5\Gamma_{4\delta}^\gamma \gamma^{4\beta} + 2 \cdot {}^5\Gamma_{4\beta}^\delta {}^5\Gamma_{4\delta}^4 \gamma^{4\beta} + 2 \cdot {}^5\Gamma_{\gamma\beta}^4 {}^5\Gamma_{44}^\gamma \gamma^{4\beta} \\ &\quad + {}^5\Gamma_{\gamma 4}^\delta {}^5\Gamma_{4\delta}^\gamma \gamma^{44} + 2 \cdot {}^5\Gamma_{44}^\delta {}^5\Gamma_{4\delta}^4 \gamma^{44} \\ &= r_{\alpha\beta} g^{\alpha\beta} + 2r_{4\beta} \gamma^{4\beta} + r_{44} \gamma^{44}, \end{aligned} \quad (\text{A.23})$$

$$r_{\alpha\beta} = {}^5\Gamma_{\gamma\beta}^\delta {}^5\Gamma_{\alpha\delta}^\gamma + 2 \cdot {}^5\Gamma_{4(\beta}^\delta {}^5\Gamma_{\alpha)\delta}^4 + {}^5\Gamma_{4\beta}^4 {}^5\Gamma_{\alpha 4}^4, \quad (\text{A.24})$$

$$r_{4\beta} = {}^5\Gamma_{\gamma\beta}^\delta {}^5\Gamma_{4\delta}^\gamma + {}^5\Gamma_{4\beta}^\delta {}^5\Gamma_{4\delta}^4 + {}^5\Gamma_{\gamma\beta}^4 {}^5\Gamma_{44}^\gamma, \quad (\text{A.25})$$

$$r_{44} = {}^5\Gamma_{\gamma 4}^\delta {}^5\Gamma_{4\delta}^\gamma + 2 \cdot {}^5\Gamma_{44}^\delta {}^5\Gamma_{4\delta}^4 \quad (\text{A.26})$$

$${}^5G_2 = s_{\alpha\beta} g^{\alpha\beta} + 2s_{4\beta} \gamma^{4\beta} + s_{44} \gamma^{44}, \quad (\text{A.27})$$

$$s_{\alpha\beta} = \Gamma_\gamma {}^5\Gamma_{\alpha\beta}^\gamma + {}^5\Gamma_4 {}^5\Gamma_{\alpha\beta}^4, \quad (\text{A.28})$$

$$s_{4\beta} = \Gamma_\gamma {}^5\Gamma_{4\beta}^\gamma + {}^5\Gamma_4 {}^5\Gamma_{4\beta}^4, \quad (\text{A.29})$$

$$s_{44} = \Gamma_\gamma {}^5\Gamma_{44}^\gamma \quad (\text{A.30})$$

A.4.1 $r_{\alpha\beta}$

まず、 $r_{\alpha\beta}$ を求める。

$$\begin{aligned} {}^5\Gamma_{\gamma\beta}^\delta {}^5\Gamma_{\alpha\delta}^\gamma &= \Gamma_{\gamma\beta}^\delta \Gamma_{\alpha\delta}^\gamma + \tilde{\Gamma}_{\gamma\beta}^\delta \Gamma_{\alpha\delta}^\gamma + \Gamma_{\gamma\beta}^\delta \tilde{\Gamma}_{\alpha\delta}^\gamma + \tilde{\Gamma}_{\gamma\beta}^\delta \tilde{\Gamma}_{\alpha\delta}^\gamma \\ &= \Gamma_{\gamma\beta}^\delta \Gamma_{\alpha\delta}^\gamma + \frac{1}{2\alpha} (e_\gamma^\delta A_\beta + e_\beta^\delta A_\gamma) \Gamma_{\alpha\delta}^\gamma + \frac{1}{2\alpha} \Gamma_{\gamma\beta}^\delta (e_\alpha^\gamma A_\delta + e_\delta^\gamma A_\alpha) \\ &\quad + \frac{1}{4\alpha^2} (e_\gamma^\delta A_\beta + e_\beta^\delta A_\gamma) (e_\alpha^\gamma A_\delta + e_\delta^\gamma A_\alpha) \\ &= \Gamma_{\gamma\beta}^\delta \Gamma_{\alpha\delta}^\gamma + \frac{1}{2\alpha} (e_\gamma^\delta A_\beta + e_\beta^\delta A_\gamma) \Gamma_{\alpha\delta}^\gamma + \frac{1}{2\alpha} \Gamma_{\gamma\beta}^\delta (e_\alpha^\gamma A_\delta + e_\delta^\gamma A_\alpha) \\ &\quad + \frac{1}{4\alpha^2} (e_\gamma^\delta e_\alpha^\gamma A_\beta A_\delta + e_\gamma^\delta e_\delta^\gamma A_\beta A_\alpha + e_\beta^\delta e_\alpha^\gamma A_\gamma A_\delta + e_\beta^\delta e_\delta^\gamma A_\gamma A_\alpha) \end{aligned} \quad (\text{A.31})$$

$$2 \cdot {}^5\Gamma_{4\beta}^\delta {}^5\Gamma_{\alpha\delta}^4 = \frac{1}{2\alpha} \left[-2A_\lambda {}^5\Gamma_{\alpha\delta}^\lambda + S_{\alpha\delta} - \frac{1}{\alpha}(c_\alpha A_\delta + A_\alpha c_\delta) \right] \left[f_\beta^\delta + \frac{1}{\alpha}(c^\delta A_\beta + A^\delta c_\beta) \right] \quad (\text{A.32})$$

ここまで来て、 $c_\mu = 0$ と置く。つまり、クラインの1938年の計算から、1926年の計算に移る。まず、しばらく局所慣性系で計算する。落とした項は後で計算する。

このとき、

$${}^5G_2 = 0 \quad (\text{A.33})$$

となる。また、

$$\begin{aligned} {}^5\Gamma_{\gamma\beta}^\delta {}^5\Gamma_{\alpha\delta}^\gamma &= \frac{1}{4\alpha^2} (f_\gamma^\delta f_\alpha^\gamma A_\beta A_\delta + f_\gamma^\delta f_\delta^\gamma A_\beta A_\alpha + f_\beta^\delta f_\alpha^\gamma A_\gamma A_\delta + f_\beta^\delta f_\delta^\gamma A_\gamma A_\alpha) \\ &= \frac{1}{4\alpha^2} (f_\gamma^\delta f_\delta^\gamma A_\beta A_\alpha + f_\beta^\delta f_\alpha^\gamma A_\gamma A_\delta + 2A_\lambda f_\delta^\lambda f_{(\alpha}^\delta A_{\beta)}). \end{aligned} \quad (\text{A.34})$$

$$\begin{aligned} 2 \cdot {}^5\Gamma_{4\beta}^\delta {}^5\Gamma_{\alpha\delta}^4 &\approx -\frac{1}{2\alpha^2} A_\lambda (f_\alpha^\lambda A_\delta + f_\delta^\lambda A_\alpha) f_\beta^\delta \\ &= -\frac{1}{2\alpha^2} (f_\alpha^\lambda f_\beta^\delta A_\lambda A_\delta + A_\lambda f_\delta^\lambda f_\beta^\delta A_\alpha). \end{aligned} \quad (\text{A.35})$$

ここで、 \approx は、 $g^{\alpha\beta}$ と縮訳させたら落ちる項を落とした、という意味である。

$${}^5\Gamma_{4\beta}^4 {}^5\Gamma_{\alpha 4}^4 = \frac{1}{4\alpha^2} f_{\beta\rho} f_{\alpha\sigma} A^\rho A^\sigma \quad (\text{A.36})$$

よって、

$$r_{\alpha\beta} \approx \frac{1}{4\alpha^2} f_\gamma^\delta f_\delta^\gamma A_\beta A_\alpha \quad (\text{A.37})$$

となる。

A.4.2 $r_{4\beta}$

$$r_{4\beta} = \tilde{\Gamma}_{\gamma\beta}^\delta {}^5\Gamma_{4\delta}^\gamma + {}^5\Gamma_{4\beta}^\delta {}^5\Gamma_{4\delta}^4 \quad (\text{A.38})$$

$$\tilde{\Gamma}_{\gamma\beta}^\delta {}^5\Gamma_{4\delta}^\gamma = \frac{1}{4\alpha} (f_\gamma^\delta f_\delta^\gamma A_\beta + f_\beta^\delta f_\delta^\gamma A_\gamma) \quad (\text{A.39})$$

$${}^5\Gamma_{4\beta}^\delta {}^5\Gamma_{4\delta}^4 = -\frac{1}{4\alpha} f_\beta^\delta f_{\delta\lambda} A^\lambda \quad (\text{A.40})$$

$$r_{4\beta} = \frac{1}{4\alpha} f_\gamma^\delta f_\delta^\gamma A_\beta \quad (\text{A.41})$$

A.4.3 r_{44}

$$\begin{aligned} r_{44} &= {}^5\Gamma_{\gamma 4}^{\delta} {}^5\Gamma_{4\delta}^{\gamma} \\ &= \frac{1}{4} f_{\gamma}^{\delta} f_{\delta}^{\gamma} \end{aligned} \quad (\text{A.42})$$

A.4.4 5G : 局所慣性系

$$\begin{aligned} {}^5G &= {}^5G_1 = \frac{1}{4\alpha^2} f_{\gamma}^{\delta} f_{\delta}^{\gamma} A_{\beta} A_{\alpha} g^{\alpha\beta} \\ &\quad - \frac{2}{\alpha} A^{\beta} \cdot \frac{1}{4\alpha} f_{\gamma}^{\delta} f_{\delta}^{\gamma} A_{\beta} \\ &\quad + \left(\frac{1}{\alpha} + \frac{1}{\alpha^2} A^{\rho} A_{\rho} \right) \frac{1}{4} f_{\gamma}^{\delta} f_{\delta}^{\gamma} \\ &= -\frac{1}{4\alpha} f_{\alpha\beta} f^{\alpha\beta} \end{aligned} \quad (\text{A.43})$$

A.4.5 上の計算で落とした項

上の計算で落とした項を計算する。
落とした項に'を付けると、

$${}^5G'_2 = {}^5G_2. \quad (\text{A.44})$$

$$\begin{aligned} r'_{\alpha\beta} &\approx \Gamma_{\gamma\beta}^{\delta} \Gamma_{\alpha\delta}^{\gamma} + \frac{1}{2\alpha} (f_{\gamma}^{\delta} A_{\beta} + f_{\beta}^{\delta} A_{\gamma}) \Gamma_{\alpha\delta}^{\gamma} + \frac{1}{2\alpha} \Gamma_{\gamma\beta}^{\delta} (f_{\alpha}^{\gamma} A_{\delta} + f_{\delta}^{\gamma} A_{\alpha}) \\ &\quad - \frac{1}{2\alpha} (A_{\lambda} \Gamma_{\alpha\delta}^{\lambda} f_{\beta}^{\delta} + A_{\lambda} \Gamma_{\beta\delta}^{\lambda} f_{\alpha}^{\delta}), \end{aligned} \quad (\text{A.45})$$

$$\begin{aligned} r'_{4\beta} &= \Gamma_{\gamma\beta}^{\delta} {}^5\Gamma_{4\delta}^{\gamma} \\ &= \frac{1}{2} \Gamma_{\gamma\beta}^{\delta} f_{\delta}^{\gamma}, \end{aligned} \quad (\text{A.46})$$

$$r'_{44} = 0 \quad (\text{A.47})$$

$$r'_{\alpha\beta} \approx \Gamma_{\gamma\beta}^{\delta} \Gamma_{\alpha\delta}^{\gamma} + \frac{1}{2\alpha} f_{\gamma}^{\delta} A_{\beta} \Gamma_{\alpha\delta}^{\gamma} + \frac{1}{2\alpha} \Gamma_{\gamma\beta}^{\delta} f_{\delta}^{\gamma} A_{\alpha} \quad (\text{A.48})$$

$$\begin{aligned} {}^5G'_1 &= G_1 + \frac{1}{\alpha} f_{\gamma}^{\delta} A^{\alpha} \Gamma_{\alpha\delta}^{\gamma} \\ &\quad - \frac{1}{\alpha} A^{\beta} \Gamma_{\gamma\beta}^{\delta} f_{\delta}^{\gamma} \\ &= G_1. \end{aligned} \quad (\text{A.49})$$

ここで、 G_1 は $g_{\alpha\beta}$ に対するものである。 G_2, G も同様とする。
また、

$$s_{44} = 0. \quad (\text{A.50})$$

$$s_{\alpha\beta} = \Gamma_\gamma \Gamma^\gamma_{\alpha\beta} + \frac{1}{2\alpha} \Gamma_\gamma (f_\alpha^\gamma A_\beta + f_\beta^\gamma A_\alpha) \quad (\text{A.51})$$

$$\begin{aligned} s_{4\beta} &= \Gamma_\gamma {}^5\Gamma^\gamma_{4\beta} \\ &= \Gamma_\gamma \frac{1}{2} f_\beta^\gamma \end{aligned} \quad (\text{A.52})$$

$$\begin{aligned} {}^5G'_2 &= {}^5G_2 \\ &= G_2 + \frac{1}{\alpha} \Gamma_\gamma f_\alpha^\gamma A^\alpha \\ &\quad - \frac{1}{\alpha} \Gamma_\gamma A^\beta f_\beta^\gamma \\ &= G_2 \end{aligned} \quad (\text{A.53})$$

よって、

$${}^5G' = G_1 - G_2 = G \quad (\text{A.54})$$

A.4.6 5G

以上より、

$${}^5G = G - \frac{1}{4\alpha} f_{\alpha\beta} f^{\alpha\beta} \quad (\text{A.55})$$

が示された。

A.5 5R

リーマン接続でのスカラー曲率は、

$$\begin{aligned} R &= g^{\mu\nu} \left[\partial_\rho \Gamma^\rho_{\mu\nu} - \partial_\nu \Gamma^\rho_{\mu\rho} + \Gamma^\rho_{\gamma\rho} \Gamma^\gamma_{\mu\nu} - \Gamma^\rho_{\gamma\nu} \Gamma^\gamma_{\mu\rho} \right] \\ &= g^{\mu\nu} \left[\partial_\rho \Gamma^\rho_{\mu\nu} - \partial_\nu \Gamma^\rho_{\mu\rho} \right] - G \end{aligned} \quad (\text{A.56})$$

である。 γ_{ab} に対するスカラー曲率を 5R とすると、

$${}^5R = R - \frac{1}{4\alpha} f_{\alpha\beta} f^{\alpha\beta} \quad (\text{A.57})$$

となる。この計算は付録Bを参照。

B スカラー場がある場合

カルツァ・クライン理論で、 g_{44} がスカラー場の場合、

$$\gamma_{44} = \phi^2, \quad \gamma_{4\mu} = \phi^2 A_\mu, \quad \gamma_{\mu\nu} = g_{\mu\nu} + \phi^2 A_\mu A_\nu \quad (\text{B.1})$$

となり (ギリシャ文字の添え字は 0 から 3 を表す)、計量は、

$$\eta_{ab}\theta^a\theta^b + \theta^4\theta^4 \quad (\text{B.2})$$

となる。ただし、

$$\theta^4 = \phi dx^4 + \phi A \quad (A = A_\mu dx^\mu) \quad (\text{B.3})$$

である。 A_μ も ϕ も x^4 には依存しないとする。ラテン小文字の添え字は 0, 1, 2, 3 を表し、その上げ下げはミンコフスキー計量 η_{ab} とその逆で行う。

B.1 ${}^5\mathcal{N}$

$$\begin{aligned} d\theta^4 &= d\phi \wedge dx^4 + d\phi \wedge A + \phi dA \\ &= d\phi \wedge \left(\frac{1}{\phi}\theta^4 - A\right) + d\phi \wedge A + \phi dA \\ &= \frac{1}{\phi}d\phi \wedge \theta^4 + \phi dA \\ &\equiv \frac{1}{\phi}\phi_a\theta^a \wedge \theta^4 + \frac{1}{2}\phi f_{ab}\theta^a \wedge \theta^b. \end{aligned} \quad (\text{B.4})$$

これは、(2.16) で、 $F \rightarrow \phi f$, $c_A \rightarrow -\phi_a/\phi$ としたものであるから、(2.34) より、

$${}^5\mathcal{N} = \mathcal{N} - \frac{\phi^2}{4}f_{\mu\nu}f^{\mu\nu} - 2\frac{\partial_\mu\phi}{\phi}\omega^{\mu\nu}{}_\nu. \quad (\text{B.5})$$

となる。

B.2 5R

§ 2 と同様にして、

$$\tilde{\omega}_{ab} = \omega_{ab} - \frac{1}{2}\phi f_{ab}\theta^4, \quad (\text{B.6})$$

$$\tilde{\omega}_{4b} = -\frac{1}{2}\phi f_{ab}\theta^a + \frac{1}{\phi}\phi_b\theta^4 \quad (\text{B.7})$$

となる。よって、

$$\begin{aligned}
d\tilde{\omega}_{ab} &= d\omega_{ab} - \frac{1}{2} \left[f_{ab}d\phi \wedge \theta^4 + \phi df_{ab} \wedge \theta^4 + \phi f_{ab}d\theta^4 \right] \\
&= d\omega_{ab} - \frac{1}{2} \left[f_{ab}d\phi \wedge \theta^4 + \phi df_{ab} \wedge \theta^4 - \phi f_{ab}\tilde{\omega}^4_c \wedge \theta^c \right] \\
&\approx d\omega_{ab} + \frac{1}{2} \phi f_{ab}\tilde{\omega}^4_c \wedge \theta^c \\
&\approx d\omega_{ab} - \frac{1}{4} \phi^2 f_{ab}f_{cd}\theta^c \wedge \theta^d
\end{aligned} \tag{B.8}$$

となる。ここで、 \approx は $d\tilde{\omega}_{ab} \wedge e^{ab}$ の計算に不要な項を落とした、という意味である。よって、

$$d\tilde{\omega}_{ab} \wedge e^{ab} = d\omega_{ab} \wedge e^{ab} - \frac{1}{2} \phi^2 f_{ab}f^{ab} * 1 \tag{B.9}$$

となる。

また、

$$\begin{aligned}
d\tilde{\omega}_{4b} &= -\frac{1}{2} \left[f_{ab}d\phi \wedge \theta^a + \phi df_{ab} \wedge \theta^a + \phi f_{ab}d\theta^a \right] \\
&\quad - \frac{1}{\phi^2} \phi_b d\phi \wedge \theta^4 + \frac{1}{\phi} d\phi_b \wedge \theta^4 + \frac{1}{\phi} \phi_b d\theta^4 \\
&\approx -\frac{1}{\phi^2} \phi_b d\phi \wedge \theta^4 + \frac{1}{\phi} d\phi_b \wedge \theta^4 + \frac{1}{\phi} \phi_b \frac{1}{\phi} \phi_a \theta^a \wedge \theta^4 \\
&= \frac{1}{\phi} d\phi_b \wedge \theta^4 \\
&\equiv -\frac{1}{\phi} \partial_a \phi_b \theta^4 \wedge \theta^a
\end{aligned} \tag{B.10}$$

である。よって、

$$d\tilde{\omega}_{4b} \wedge e^{4b} = -\frac{1}{\phi} \eta^{ab} \partial_a \phi_b * 1. \tag{B.11}$$

以上より、

$$\begin{aligned}
{}^5R &= R - \frac{\phi^2}{4} f_{\mu\nu} f^{\mu\nu} + \frac{2}{\phi} \left[-\eta^{ab} \partial_a \phi_b + \phi_b \omega^{ba}_a \right] \\
&= R - \frac{\phi^2}{4} f_{\mu\nu} f^{\mu\nu} - \frac{2}{\phi} g^{\mu\nu} \nabla_\mu \partial_\nu \phi
\end{aligned} \tag{B.12}$$

となる。また、

$$\sqrt{-\gamma} = \sqrt{-g} \phi \tag{B.13}$$

である。よって、

$$\begin{aligned}
\sqrt{-\gamma} \cdot {}^5R &= \sqrt{-g} \left[\phi R - \frac{\phi^3}{4} f_{\mu\nu} f^{\mu\nu} \right] - 2g^{\mu\nu} \sqrt{-g} \nabla_\mu \partial_\nu \phi \\
&= \sqrt{-g} \left[\phi R - \frac{\phi^3}{4} f_{\mu\nu} f^{\mu\nu} \right] - 2\partial_\mu (\sqrt{-g} g^{\mu\nu} \partial_\nu \phi).
\end{aligned} \tag{B.14}$$

C キリング条件

キリング条件

$$\nabla_{(\mu} K_{\nu)r} = 0 \quad (\text{C.1})$$

と

$$\partial_{(C} K_{A)r} - 2H_{(AC)B} K_r^B = 0 \quad (\text{C.2})$$

の等価性を示す。ここで、 $K_{\nu r} = h^A_{\nu} K_{Ar}$ であり、

$$\partial_C K_{Ar} = (h^{-1})^{\mu}_C \partial_{\mu} K_{Ar} \quad (\text{C.3})$$

である。

(C.1) は、

$$\partial_{\mu} K_{\nu r} + \partial_{\nu} K_{\mu r} - 2\Gamma^{\lambda}_{\mu\nu} K_{\lambda r} = 0 \quad (\text{C.4})$$

である。ところで、

$$\begin{aligned} \partial_{\mu} K_{\nu r} &= \partial_{\mu} (h^A_{\nu} K_{Ar}) \\ &= h^A_{\nu} \partial_{\mu} K_{Ar} + \partial_{\mu} h^A_{\nu} \cdot K_{Ar} \end{aligned} \quad (\text{C.5})$$

なので、(C.4) は、

$$h^A_{(\nu} \partial_{\mu)} K_{Ar} + (\partial_{(\mu} h^A_{\nu)} - \Gamma^{\lambda}_{\mu\nu} h^A_{\lambda}) K_{Ar} = 0 \quad (\text{C.6})$$

となる。また、

$$(h^{-1})^{\mu}_B (h^{-1})^{\nu}_C (\partial_{(\mu} h^A_{\nu)} - \Gamma^{\lambda}_{\mu\nu} h^A_{\lambda}) = -\omega^A_{(BC)} \quad (\text{C.7})$$

なので、(C.6) より、

$$\partial_{(B} K_{C)r} - \omega_{A(BC)} K_r^A = 0 \quad (\text{C.8})$$

を得る。ところで、

$$\omega_{ABC} = H_{ABC} + 2H_{(BC)A}, \quad (\text{C.9})$$

$$\omega_{A(BC)} = 2H_{(BC)A} \quad (\text{C.10})$$

なので、(C.8) は、

$$\partial_{(B} K_{C)r} - 2H_{(BC)A} K_r^A = 0 \quad (\text{C.11})$$

となる。これは (C.2) である。

References

- [1] Lochlainn O’Raifeartaigh, “The Dawning of Gauge Theory”, Princeton University Press (1997).
- [2] 藤井保憲『超重力理論入門』(産業図書, 2005年).
- [3] 佐藤文隆, 小玉英雄『一般相対性理論』(岩波書店, 1992年).
- [4] 内山龍雄『一般ゲージ場論序説』(岩波書店, 1987年).